

オペレーターズマニュアル

MS720

側方排出型 フィニッシュ モア





500 Venture Drive
Orrville, OH 44667
www.ventrac.com

すべてのマニュアル
を見る



最新のオペレーターズマニュアルはこちら
へ: ventrac.com/manuals
パーツマニュアルもダウンロードできます。

オーナー様へ ご連絡をいただく際に必要となる情報

製品の修理等について、Ventrac 正規販売店にお問い合わせされる場合は、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお知らせください。

以下に必要情報をメモしておきましょう。製品の銘板は、下の写真に示す位置にあります。下のメモ欄に記録しておいてください。

購入日: _____

販売店名: _____

販売店の所在地: _____

販売店の電話番号: _____

販売店の FAX 番号: _____

モデル番号 (A): _____

シリアル番号 (B): _____



Venture Products Inc. は、設計・仕様を変更する権利を留保します。弊社は、過去に製造された製品に対してかかる変更を行う義務を負いません。

目次

| | |
|--------------------------------|---------------|
| はじめに | ページ 5 |
| 製品の説明 | 5 |
| オペレーターズマニュアルが必要な理由? | 5 |
| マニュアルのご使用方法 | 6 |
| マニュアル用語 | 6 |
| 安全関係 | ページ 7 |
| 基本的な安全対策 | 7 |
| 必要なトレーニング | 7 |
| 個人用保護具 (PPE) の装着義務について | 7 |
| 運転時の安全確保 | 7 |
| 人を乗せない | 9 |
| 傾斜地での運転 | 9 |
| トラックやトレーラによる搬送 | 10 |
| メンテナンス | 10 |
| 燃料の安全について | 11 |
| 油圧機器の安全について | 12 |
| カッティングユニットの安全確保 | 13 |
| 油圧フリップアップキット (オプション) の基本的な安全対策 | 13 |
| 安全デカル | 14 |
| 運転装置 | ページ 16 |
| 運転装置の配置 | 16 |
| 高さ調整ハンドル (A) | 16 |
| ベルトテンションハンドル (B) | 16 |
| 一次 SDLA コントロールレバー | 16 |
| 二次 SDLA コントロールレバー | 16 |
| 重量移動 | 16 |
| 運転操作全般について | ページ 17 |
| 日常点検 | 17 |
| アタッチメントの取り付け | 17 |
| アタッチメントの取り外し | 17 |
| 運転操作 | 17 |
| アタッチメントを搬送する時 | 18 |
| 刈高の調整 | 18 |
| 前ローラの位置 | 18 |
| マルチングキット (オプションアクセサリ) | 18 |

目次

| | |
|------------------------------------|---------------|
| 整備 | ページ 19 |
| 機体の清掃と一般的な保守整備作業 | 19 |
| メインデッキのカバーシールドの取り外しと取り付け | 19 |
| デッキの立て方(デッキを整備位置にするには). | 19 |
| 刈り込みブレードの点検と交換. | 21 |
| ブレードの研磨 | 21 |
| ベルトの点検. | 21 |
| アタッチメントベルトの交換. | 21 |
| デッキベルトの交換. | 21 |
| デッキベルトのテンション調整 | 22 |
| デッキの水平調整. | 22 |
| タイヤ空気圧. | 23 |
| 潤滑ポイント | 23 |
| 格納保管 | 24 |
| 整備スケジュール | 25 |
| 定期整備チェックリスト. | 26 |
| 仕様 | ページ 27 |
| 寸法 | 27 |
| 特長 | 27 |

はじめに



Venture Products Inc. より、謹んで Ventrac の新しい MS720 モアをお届けいたします!Ventrac の機器が、お客様にワントラクタソリューションをお届けできることを祈念しております。

お買い上げいただいた MS720 モアと組み合わせ可能な製品すべてを、弊社ウェブサイトでご覧いただくことができます。正規販売店でもご紹介可能です。

| | 説明 | パーツ番号 |
|-------|---|---------|
| アクセサリ | MS/MT720 マルチング j キット (79.0106 マルチブレードを含む) | 70.8164 |
| | ローリフトブレード (必要数 3枚) | 79.0104 |
| | ゲイターブレード (必要数 3枚) | 79.0107 |
| | マルチブレード (必要数 3枚) | 79.0106 |
| | 油圧式デッキフリップアップキット | 70.8214 |
| | フラットフリータイヤ/ホイールアセンブリ (モア1台あたりの必要に応じ数 2) | 53.0214 |

製品の説明

MS720 モアは仕上げ刈り専用で作られた特別なモアです。最高の切れ味でベストの刈り上がりを実現しつつ、未長くお使いいただけるマシンです。刈り込みデッキは高強度鋼製。内部に障害物がないので、刈りかすのこびりつきを最小限に抑えることができ、掃除が簡単です。キャリアフレームはオールスチール製で頑丈な作り。後部に刈幅と同じ長さのローラを配置しており、均一な刈り込みと美しいストライピングを作り出します。

MS720 の刈幅は 183 cm。Ventrac のリニア調整システムにより、刈高 2.54 cm から 12.7 cm まで全部で 18 種類の刈高の設定が可能です。しかも刈高の変更はレバー 1 本。片手で手早く簡単にできます。また、スライドリリース機能により、ハンドルをデッキと同じ高さに戻すことができるので、低い枝や低木にハンドルが引っかかることはありません。

デッキは、ほぼ垂直状態まで立てることができますので、整備や格納に大変便利です。オプションとして油圧式のデッキフリップアップキットがあり、パワーユニットの油圧システムを利用してデッキをほぼ垂直位置まで立てることができます。

オペレーターズマニュアルが必要な理由?

このマニュアルは、お買い上げいただいた機械を安全に運転操作し維持管理するために必要な重要な知識を身につけ、けがや製品の破損を防止するためのものです。知りたい情報をすぐ探せるように、いくつかの章に分けて作成されています。

Ventrac の機器それぞれについて、該当する取扱説明書をお読みにになり、内容を理解してください。マニュアルをお読みになることで、それぞれの機器に精通することができます。マニュアルが破損したり読めなくなったりした場合は、すぐに交換してください。お近くの Ventrac 売店で新しいマニュアルを入手していただけます。

Ventrac のアタッチメントを使用する際は、パワーユニットとアタッチメントの両方のマニュアルを読んで安全確保と正しい運転操作について学び、安全作業を心掛けてください。

このマニュアルには、機械の最も安全な運転方法と、機械の性能をを最大限に引き出すための情報が掲載されています。記載されている安全上の注意事項を守らないと、人身事故や機器の故障・損傷の原因となります。

はじめに

マニュアルのご使用方法

このマニュアルでは、人身事故や機械の損傷などを起こすことなく製品をお使いいただくことができるように、安全上の懸念となるような潜在的な危険について説明しております。機械をお使いいただく際は、常に安全第一を心掛ける必要があります。適切な作業手順を守り、十分に運転操作経験を積んで、事故防止に努めてください。

記号の説明



この記号は健康や安全に関する危険が潜んでいることを意味します。すなわち安全に関わる注意事項をお伝えするものです。あなたと他の人の安全に関わる内容です。

危険の度合いを表す3種類のキーワードがあります。危険、警告、注意、です。

キーワードの意味

▲危険

危険は、人の生命に関わる重大な潜在的危険を意味します。この注意を守らないと死亡事故や重大な人身事故が起こります。危険の度合いが非常に大きい場合に、この言葉が用いられます。

▲警告

警告は、人の生命に関わる潜在的危険を意味します。この注意を守らないと死亡事故や重大な人身事故が起こる恐れがあります。

▲注意

注意は、安全に関わる潜在的危険を意味します。この注意を守らないとけがや物損事故をおこす可能性があります。安全でない行動や取扱い方法に対して注意を促す場合にも用いられます。

この他に2つの言葉で注意を促しています。**注意事項**は、製品の機械的特徴などについての注意点、損傷や失敗を避けて手際よく作用するためのコツなどを示します。**注**はその他の一般的な注意点を表しています。

注:このマニュアルでは、左右を表す方法を以下のように統一しております。左右は常に運転席に座って前を向いている状態を基準として表現されます。

マニュアル用語

- パワーユニット** Ventracトラクタやその他の Ventrac 製品でエンジンを搭載して自走することが可能な機械。アタッチメントやアクセサリを搭載することができる動力機械。
- アタッチメント** Ventrac 製品のうちで、パワーユニットによって駆動させる機械。
- アクセサリ** パワーユニットやアタッチメントに取り付けて使用する機械。
- マシン** パワーユニットと共に用いられるアタッチメントやアクセサリ。

安全関係



基本的な安全対策



Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために

必要なトレーニング

- 本機のオーナーは、オペレータに適切なトレーニングを施すことについて全責任を負います。
- 本機のオーナー・オペレータは、本機の運転操作に伴って発生しうる、すべての人身事故・物損事故の防止および結果について全責任を負います。
- トレーニングを受けていない人や子供に運転操作をさせたり修理整備をさせないでください。地域によっては機械のオペレータに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
- 本機を運転する前に、オペレーターズマニュアルを読んで内容を十分理解してください。
- オペレータがマニュアルの内容を理解できない場合は、オーナーの責任において、内容を十分に理解させてください。
- 運転に必要なすべての装置について、その使い方を学び、理解してください。
- パワーユニットやアタッチメントを緊急停止させる方法を知っておいてください。

個人用保護具 (PPE) の装着義務について

- オーナーは、本機を運転するすべてのオペレータに、適切な防具 (PPE) を着用させる責任があります。本機を使用するときは、必ず以下の PPE を使用してください。
- 目 (視覚) と耳 (聴覚) の保護具 (認定品)。
- つま先が閉じている滑り止め機能のある履物。
- 長ズボン。
- マスク (ほこりの多い場所で作業する時)
- その他、状況に応じて必要となる保護具。その他の要件については、製品の安全についての章を参照してください。

運転時の安全確保

- 長い髪は束ねてください。だぶだぶの服装は避けてください。アクセサリは身に着けないでください。
- 運転前点検を行ってください。破損したり欠落、摩耗している部品は交換してください。ガードやシールド類がすべて適正位置に取り付けてあり、正常に機能することを確認しましょう。運転に必要な調整は、運転開始前に済ませましょう。
- 本書では、説明の都合上、シールドやカバーを外すなどした写真を使用していることがあります。どんな場合にも、運転時にはシールドやカバーを必ず取り付けてください。
- 本機に改造や変更を加えると、安全性が低下し本機を破損させる恐れがあります。安全装置を改造しないこと、シールドやカバーを外したままで運転しないことをお守りください。
- 毎日の運転開始前に、運転装置がすべて正しく機能すること、安全装置がすべて正常に機能していることを確認してください。運転装置や安全装置が正常に機能していない場合は、運転しないでください。
- 運転前に、駐車ブレーキの機能点検を行ってください。必要に応じて駐車ブレーキの修理や調整を行ってください。
- 安全デカルに記載されているすべての注意事項を守ってください。
- どの運転装置も、運転席以外からは操作できないようになっています。
- RPOS 搭載機では、ROPS を真っ直ぐに立てた状態で固定し、必ずシートベルトを着用して運転してください。

安全関係



基本的な安全対策

Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために



- 運転前に、アタッチメントやアクセサリがパワーユニットに確実に取り付けられていることを確認してください。
- 運転開始前に、パワーユニットとアタッチメントの周囲に人がいないことを確認してください。作業場所に人が入ってきたら機械を停止させましょう。
- 運転操作に集中しつつ、常に周囲の状況に注意を払ってください。常に機械の進行方向を注視してください。
- バックするときには、足元と後方の安全に十分な注意を払ってください。
- マシンが何かにぶつかったら、すぐに停止して点検してください。破損箇所は必ず修理してから、運転を再開するようにしてください。
- 故障や破損の気配に気づいたら、直ちに運転を停止してください。運転音が通常と異なるのは破損や故障の徴候の場合もあり、また整備をすれば直る場合もあります。破損箇所は必ず修理してから、運転を再開するようにしてください。
- ハイ・ローレンジ機能のあるマシンの場合、傾斜地では絶対にレンジの切り替えをしないでください。シフトは必ず平地で、駐車ブレーキをかけた状態で行うこと。
- 装置が動作中は機械から離れない。
- 駐車する時は必ず平らな場所に駐車してください。
- アタッチメントの駆動ベルトをパワーユニットに取り付ける時は、必ずエンジンを停止してください。
- 運転席を離れる場合には、必ず、アタッチメントを地表面まで降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、イグニッションキーを抜き取ってください。すべての可動部が完全に停止するまで、運転席を離れないでください。
- マシンから離れる場合には、必ず、アタッチメントを地表面まで降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、イグニッションキーを抜き取ってください。
- 十分な明るさのない場所で運転しないでください。
- 落雷の危険がある時には運転しないでください。
- アタッチメントから放出される刈りかすなどを、人や建物、動物、車などに向けしないでください。
- 壁やなどにも向けしないでください。壁などに当たった異物が飛んできてけがをする恐れがあります。
- 見通しの悪い曲がり角や、茂み、立ち木などの障害物の近くでは十分に安全に注意してください。
- 締め切った場所では、エンジンを運転しないでください。
- エンジン回転中や停止直後は、エンジン本体やマフラーに触れないでください。これらの部分は高温になっており、触れると火傷を負う危険があります。
- エンジンのガバナの設定を変えたり、エンジンの回転数を規定以上に上げたりしないでください。規定以上の速度でエンジンを運転すると人身事故の危険が大きくなります。
- バッテリーコンパートメント、エンジンルーム、マフラーの周辺などに刈りかす、落ち葉、大量のグリスなどの可燃物がたまると火災の恐れがありますから、こまめに掃除してください。
- マシンにぶつかったり、当たって跳ね飛ばされたりする可能性のあるものを作業場所に置かないようにしてください。

安全関係



基本的な安全対策



Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために

- 作業場所に、無用の人間やペットなどを近づけないでください。
- 作業を始める前に、作業場所をよく観察してください。安全に走行できるか、転倒の危険がないか、わからない場所では運転しないでください。
- 不整地では速度を落としてください。
- 不適切な運転は、重大な人身事故や死亡事故につながります。運転前に、パワーユニットと、使用するアタッチメントを安全に運転操作する方法を十分に理解してください。
- 体調が悪い時や気分がすぐれない時、スマホなどの機器に対応しなければならないことが予想される時、判断力や反射的な動作に影響が出るような物質を摂取した時は、運転しないでください。
- 子供はマシンに非常に興味を持つものです。子供に注意し、作業場所に入れないようにしてください。子供が近づいてきたらマシンを停止させてください。
- パワーユニットやアタッチメント、アクセサリは、公道を走行することを目的としておりません。絶対に公道上や高速道路上で運転しないでください。
- 道路の近くで運転するときは、安全灯を点灯してください。
- 道路付近での運転や道路を横断する場合は、速度を落とすとして、周囲の交通に十分注意してください。道路や歩道を横断するときは、一旦停止してください。視界が遮られる場所やその近くでは、安全に十分注意してください。

人を乗せない

- パワーユニットに乗れるのはオペレーター一人だけです。他の人を乗せないでください。
- アタッチメントやアクセサリにも、絶対に人を乗せないでください。

傾斜地での運転

- 斜面はスリップや転倒などを起こしやすく、これらは重大な人身事故につながります。パワーユニットの運転装置に十分に慣れると共に、緊急ブレーキをいつでも使えるようになってください。
- 折りたたみ式の ROPS が装備されているマシンを傾斜地で運転する時は、ROPS を立ててロックしておく必要があります。
- 傾斜が 15 度を超える場所で（ローレンジが使えるマシンでは）ローレンジで運転してください。
- 傾斜地では、急停止や急発進をしないでください。
- 傾斜地では絶対にハイ・ローレンジの切り替えをしないこと。レンジの切り替えや、パワーユニットをニュートラルにする時には、必ず平地に移動し、駐車ブレーキを掛けてください。
- 濡れた路面やぬかるみなどは、安全性を低下させます。立ち往生する可能性のある場所や転倒する可能性のある場所では運転しないでください。
- 危険な地形や見えにくい危険個所に注意してください。
- 段差、溝、堤防などには近づかないでください。
- 傾斜地で運転している時は、急旋回をしないように注意してください。
- 傾斜地での牽引作業は安全性が低下します。傾斜地では、オーナー/オペレータの責任において、安全に作業ができる限界荷重を決定してください。

安全関係



基本的な安全対策

Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために



- ・ 移動走行する場合は、安定性を高めるため、アタッチメントを下げた状態または地表面にできるだけ近くまで下げてください。
- ・ 傾斜地では、可能な限り登り下り方向で運転してください。傾斜地を走行中に曲がる必要がある場合は、速度を落として谷側へゆっくりと曲がってください。
- ・ 運転中に燃料切れを起こさないよう、十分な量の燃料を積んでおいてください。推奨燃料積載量は最低でもタンク 1/2 です。

トラックやトレーラによる搬送

- ・ トレーラやトラックにマシンを積み降ろすときには安全に十分注意してください。
- ・ トレーラやトラックに積み込む際には、機体と同じ幅のある歩み板を使用してください。
- ・ 搬送中のマシンは、駐車ブレーキだけで完全に固定することはできません。必ず、ストラップ、チェーン、ケーブル、ロープなどで、パワーユニットとアタッチメントを運搬車両にしっかりと固定してください。機体の前後に取り付けた固定ロープは、どちらも、機体を外側に引っ張るように配置してください。
- ・ 搬送中は、パワーユニットの燃料バルブを閉めておいてください。
- ・ バッテリー遮断スイッチのあるマシンでは、スイッチを OFF にして、通電を遮断してください。

メンテナンス

- ・ 安全デカルは全て読める状態に維持してください。安全や操作説明に関わるデカルはどれもグリスやほこりで汚れないように維持してください。
- ・ デカルが色あせたり、読みにくくなったり、はがれてなくなったりした場合は、速やかに販売店に連絡して新しいデカルを入手してください。
- ・ 新しい機器などを取り付ける場合は、それに最新の安全デカルが貼られていることを確認してください。
- ・ 交換部品は必ず Ventrac 純正品を使用してください。
- ・ 修理を行う前に、必ずバッテリー遮断スイッチを OFF 位置にするか、バッテリーを取り外してください。バッテリーの接続を外すときにはマイナスケーブルを先に外し、次にプラスケーブルを外してください。接続するときにはプラス端子に先に接続し、次にマイナス端子に接続してください。
- ・ ボルト、ナット、ねじなどの締結具にゆるみが出ないように維持してください。
- ・ アタッチメントは必ず床面まで降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、イグニッションキーを抜き取ってください。清掃、点検、調整、修理などの作業は、すべての可動部が完全に停止したのを確認してから行ってください。
- ・ パワーユニット、アタッチメント、アクセサリの修理方法や調整方法がオペレーターズマニュアルに記載されていない場合、それらの作業は Ventrac 正規販売店が行う必要があります。
- ・ 運転席に人がいるときは、絶対にパワーユニットやアタッチメントに対する作業を行わないでください。
- ・ バッテリーを取り扱うときは、必ず保護めがねを着用してください。
- ・ 定期的に、燃料ラインとその取り付け具合、摩耗の有無を点検してください。必要に応じて締め付けや修理を行ってください。
- ・ バッテリーコンパートメント、エンジンルーム、マフラーの周辺などに刈りかす、落ち葉、大量のグリスなどがたまると火災の恐れがありますから、こまめに掃除してください。
- ・ エンジン回転中や停止直後は、エンジン本体やマフラーなどの排気系統に触れないでください。これらの部分は高温になっており、触れると火傷を負う危険があります。

安全関係



基本的な安全対策

Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために



- マシンを格納する際にはエンジンが十分冷えていることを確認し、また裸火の近くを避けて保管してください。
- エンジンのガバナの設定を変えたり、エンジンの回転数を規定以上に上げたりしないでください。規定以上の速度でエンジンを運転すると人身事故の危険が大きくなります。
- スプリングには、エネルギーが蓄積されている場合があります。スプリングやバースプリング付き部品を取り外すときは注意してください。
- 駆動系や可動部・回転部に障害物や詰まりなどがあると、エネルギーが蓄積されていることがあり、それらの障害物や詰まりを取り除いた時、駆動系や可動部・回転部が急に動くことがあります。障害物や詰まりを手で取り除こうとしないでください。動力部には手、足、衣服などを近づけないでください。

燃料の安全について

- 人身事故や物損事故を防止するために、ガソリンの取り扱いには細心の注意を払ってください。ガソリンは非常に引火・爆発しやすい物質です。
- 喫煙しながらの給油、裸火や火花の近くでの給油はしないでください。
- 給油は必ず屋外で行ってください。
- 燃料や気化した燃料が、裸火、火花、種火などに到達するような屋内で、マシンや燃料容器を保管しないでください。
- 燃料は必ず認定された容器に保存してください。子供の手の届くところに保管しないでください。
- トラックの荷台に敷いたマットなどの絶縁体の上では絶対に燃料の給油をしないでください。容器は車から十分に離し、地面に直接置いて給油してください。
- 給油は、マシンをトラックやトレーラから地面に降ろし、機体を接地させた状態で行ってください。マシンを車両に搭載したままで給油を行わなければいけない場合には、大型タンクのノズルからでなく、小型の容器から給油してください。
- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、絶対に燃料タンクのフタを開けたり給油したりしないでください。エンジンが冷えてから給油してください。
- 傾斜地では絶対に燃料キャップを開けないでください。必ず、平らな場所に駐車してから開けるようにしてください。
- 給油後は、燃料タンクのキャップと燃料容器のキャップを確実に閉めてください。
- 燃料を入れすぎないでください。給油は燃料タンクの補給管の根元までとし、補給管一杯まで入れないでください。燃料タンクに燃料を入れ過ぎると、エンジン側に燃料があふれ出たり、タンクから燃料が漏れたり、燃料蒸気制御装置を損傷させたりする恐れがあります。
- 燃料がこぼれた場合、エンジンを始動させないでください。こぼれた場所からパワーユニットを離し、燃料が完全に気化して拡散してしまうまで、火気の使用を控えてください。
- 燃料タンクから燃料を抜き取る必要がある場合は、屋外で、認定された容器に排出することが必要です。
- 定期的に、燃料ラインとその取り付け具合、摩耗の有無を点検してください。必要に応じて締め付けや修理を行ってください。
- 燃料系統には燃料バルブが付いています。マシンを修理工場などへ搬送するとき、屋内に駐車するとき、は燃料系統の整備を行うときは、燃料バルブを閉じてください。

安全関係

基本的な安全対策

Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために



油圧機器の安全について

- 油圧接続部にゆるみが無いように、またすべての油圧ホースとチューブを良好な状態で維持してください。オイル漏れが発見された場合は、必ず修理し、損傷や劣化したホースやチューブを交換してから運転してください。
- 油圧のオイル漏れには、高圧が掛かっている可能性があります。したがって油圧オイルの漏れには特別の注意が必要です。
- オイル漏れ箇所を探すときは、段ボールと拡大鏡を使ってください。
- 油圧のピンホールリークやノズルからは作動油が高圧で噴出しているので、絶対に手などを近づけないでください。高圧で噴出するオイルは皮膚を突き破って重大な傷害を引き起こし、放置すると重篤な合併症や二次感染につながる恐れがあります。万一、油圧オイルが皮膚に入ってしまった場合は、どんなに軽傷でも直ちに医師の診察を受けてください。
- 油圧システムは内部にエネルギーを蓄積している場合があります。油圧システムの整備や修理を行う前には、すべてのアタッチメントを外し、駐車ブレーキブレーキをかけ、重量移動システム搭載機ではシステムを解除し、エンジンを停止し、イグニッションキーを抜き取ってください。パワーユニットのエンジンを停止し、油圧コントロールレバーを左右に動かして補助油圧システム内の油圧を解放し、その後に補助油圧クイックカップラの接続を外してください。

安全関係



MS720 の基本的な安全対策



カッティングユニットの安全確保

- 回転刃の危険: 回転している刈り込みブレードその他の可動部に触れると大けがをする。手足を近づけないこと。
- ひとつのブレードを回転させると、他のブレードも回転することがある。
- 異物が飛び出す危険: モアの排出口を人や動物や建物などに向けないこと。必ず、デフレクタを取り付けて使用すること。
- 刈り込みを行っていない時、特に砂利道のような場所を通る時などは、必ず PTO を OFF にすること。
- ブレード回転中は絶対にデッキを上昇させないこと。

油圧フリップアップキット(オプション)の基本的な安全対策

- アタッチメントの油圧システムは、その内部にエネルギーを蓄積している場合があります。油圧システムの保守や修理を行う前には、アタッチメントの補助油圧ホースをパワーユニットから取り外す必要があります。アタッチメントを床面まで降下させてパワーユニットのエンジンを止め、2 次 SDLA レバーを左右に何度か動かして補助油圧回路内部の圧力を解放した後に、補助油圧クイックカップラを外してください。
- デッキが立てられた状態にある間は、オプションのフリップアップキットの補助油圧ホースを外さないでください。

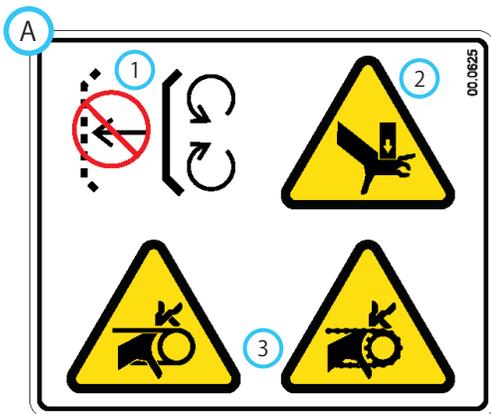
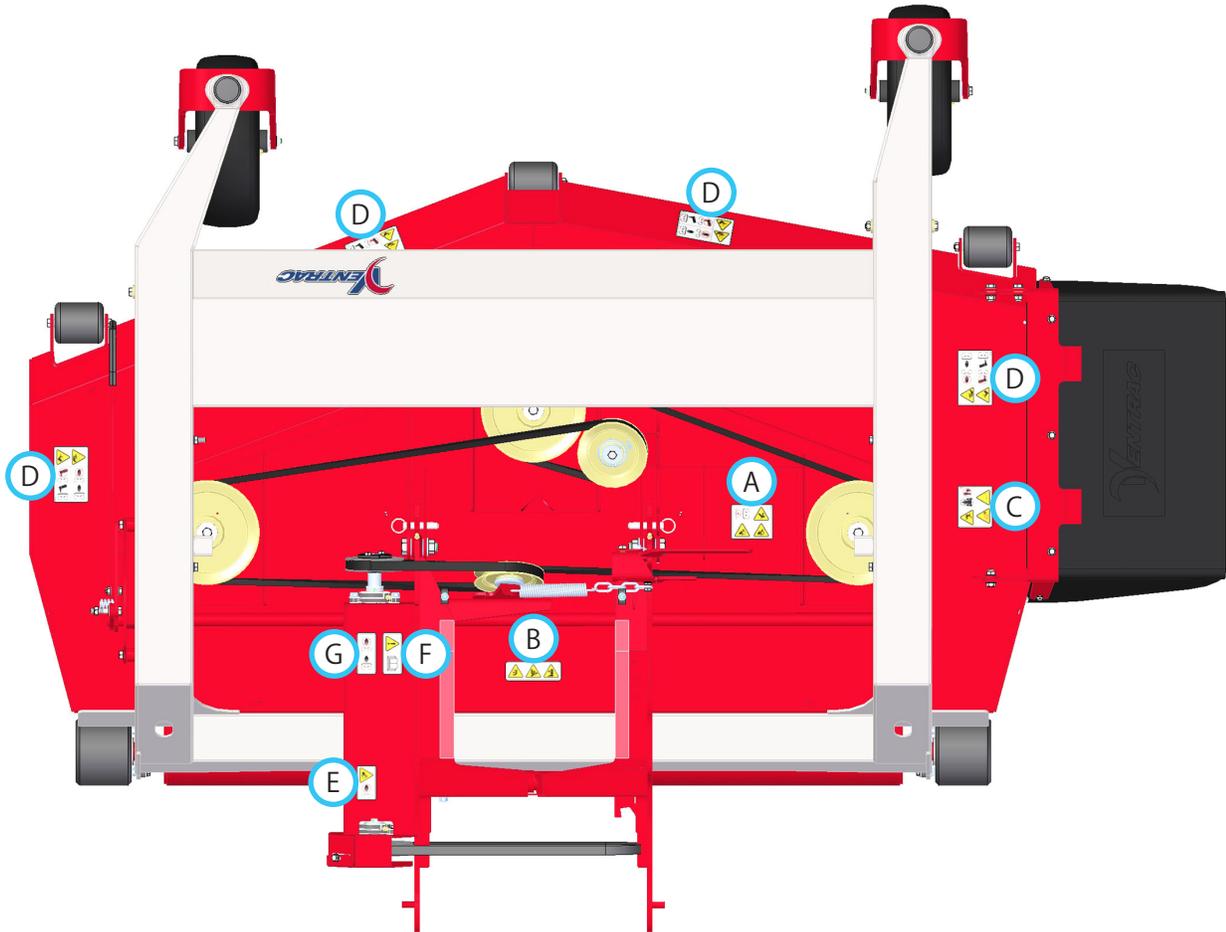
安全関係

安全デカル

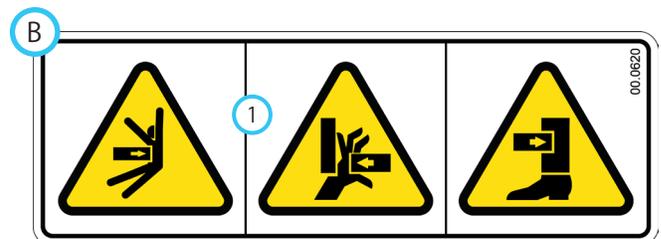
以下の安全デカルは必ずアタッチメントに貼付しておいてください。

安全デカルは全て読める状態に維持してください。安全や操作説明に関わるデカルはどれもグリスやほこりで汚れないように維持してください。デカルが色あせたり、読みにくくなったり、はがれてなくなったりした場合は、速やかに販売店に連絡して新しいデカルを入手してください。

新しい機器などを取り付ける場合は、それに最新の安全デカルが貼られていることを確認してください。

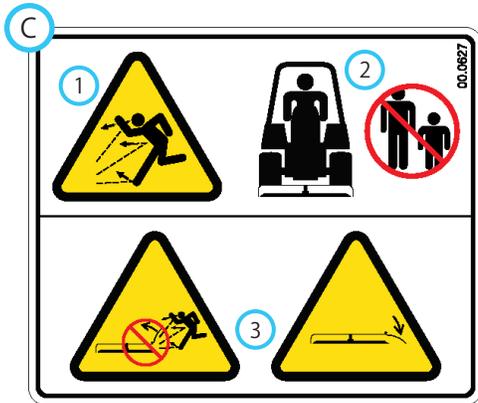


1. シールドが外れている: 取り付けて運転すること。
2. 挟まれたりつぶされたりする危険。
3. 指や手が巻き込まれる危険。

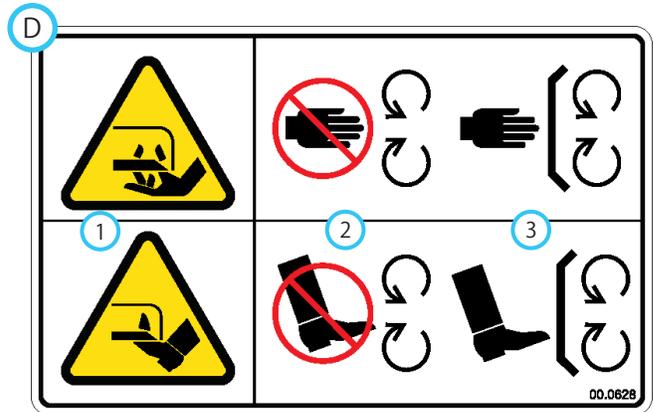


1. 身体を挟まれたりつぶされたりする危険。

安全関係



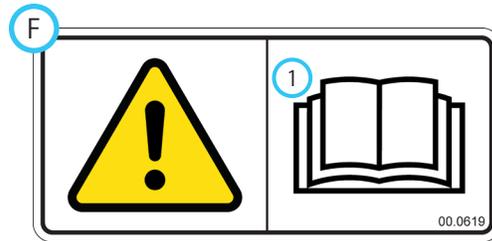
1. 異物が飛び出す危険。
2. 機械の周囲に人を近づけないでください。
3. デフレクタを外して運転しないこと。



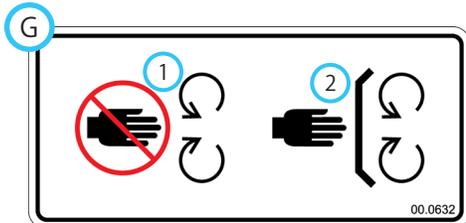
1. 刈り込み刃によって手足をけがしたり切断する危険。
2. 可動部に近づかないこと。
3. すべてのガードやシールドを正しく取り付けて運転すること。



1. 指や手が巻き込まれる危険。
2. 可動部に近づかないこと。



1. 警告:オペレーターズマニュアルを読むこと。

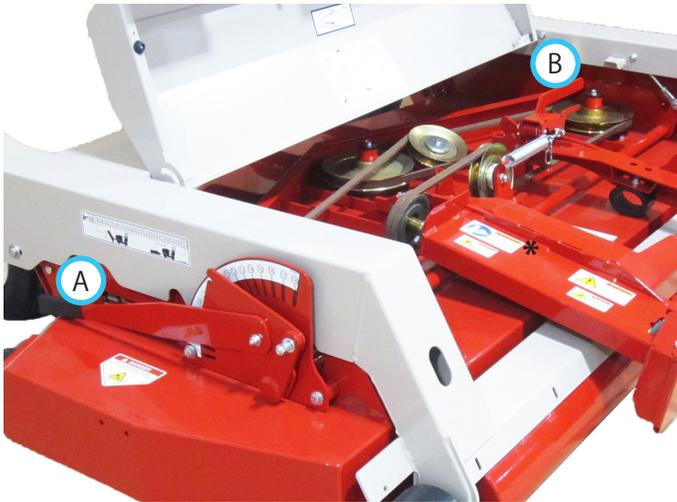


1. 可動部に近づかないこと。
2. すべてのガードやシールドを正しく取り付けて運転すること。

| デカル | 名称 | パーツ番号 | 数量 |
|-----|--------------------|---------|----|
| A | シールドが外れている | 00.0625 | 1 |
| B | 身体を挟まれたりつぶされたりする危険 | 00.0620 | 1 |
| C | 異物が飛び出す危険。 | 00.0627 | 1 |
| D | 切断の危険:刈り込み刃 | 00.0628 | 4 |
| E | 指が巻き込まれる危険 | 00.0631 | 1 |
| F | オペレーターズマニュアルを読むこと | 00.0619 | 1 |
| G | 可動部品の危険 | 00.0632 | 1 |

運転装置

運転装置の配置



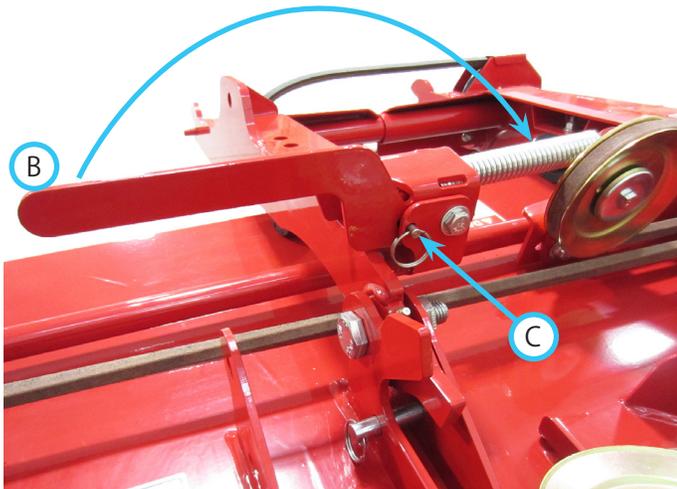
- A. 高さ調整ハンドル
- B. ベルトテンションハンドル

高さ調整ハンドル(A)

高さ調整ハンドル(A)は、刈り込みデッキの刈高を調整し、デッキをその刈高に固定しておくハンドルです。

ベルトテンションハンドル(B)

ベルトテンションハンドル(B)は、刈り込みデッキのベルトに張力を掛けるためのハンドルです。デッキを整備位置に立てる時には、このハンドルでベルトの張りをなくす必要があります。



その場合には、ハンドルについているボールピン(C)を外し、ハンドルを180度回転させると、ベルトの張力が解放されます。

一次 SDLA コントロールレバー

一次 SDLA コントロールレバー*を左に引くと、パワーユニットの前ヒッチとブームモアのデッキが上昇します。レバーを右に倒すと、パワーユニットの前ヒッチとモアのデッキが下降します。刈り込み作業中は、レバーをフロート位置(ディテント固定位置)にある必要があります。レバーを右に動かしてディテント(くぼみ)に入れると、レバーがその位置にロックされます。

二次 SDLA コントロールレバー

二次 SDLA コントロールレバー*は、油圧式デッキフリップアップキット(オプション)用です。レバーを左に倒すと、デッキが立ち上がって整備位置になります。右に倒すと、デッキが下降して刈り込み位置になります。

重量移動

パワーユニットの重量移動システム*の適切な設定位置は、地形や地盤の状況によって変わる場合がありますが、ほとんどの場合は、重量移動装置を最大能力の1/2から3/4に設定する必要があります。

*パワーユニットの制御装置の使い方については、パワーユニットのオペレーターズマニュアルを参照してください。

運転操作全般について

日常点検

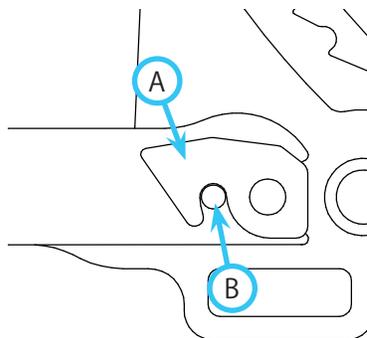


機械の点検、修理、調整などを行う時は、必ず駐車ブレーキを掛け、パワーユニットのエンジンを停止してイグニッションキーを抜き取り、機械のすべての動作が完全に停止していることを確認すること。

1. 平らな場所にマシンを止め、エンジンを停止し、オイルなどが十分に冷えるのを待つ。
2. パワーユニットとアタッチメントの両方の目視点検を行う。ゆるんだり外れたりしている部品や、機器の破損や摩耗がないか点検する。
3. 油圧装置を使用している場合は、油圧ホースと油圧フィッティングを点検し、接続部にオイル漏れなどがないことを確認する。
4. 駆動ベルトに傷や過度の摩耗がないか点検する。このマニュアルの「ベルトの点検」の項を参照。
5. 刈り込みデッキのブレード、およびブレードの取り付けボルトを点検する。ブレードの刃先が鋭利であること、ブレードが確実に取り付けられていることを確認する。必要に応じて整備を行う。
6. タイヤ空気圧を点検する。

アタッチメントの取り付け

1. デッキ高さ調整ハンドルが #18 の位置に設定されていることを確認する。
2. アタッチメントのヒッチアームまで、パワーユニットをゆっくり前進させる。パワーユニットの前ヒッチを上下させて昇降アームをアタッチメントのヒッチアームに合わせ、アタッチメントをパワーユニットに接続する。
3. 適切に接続されているのを確認したら、前ヒッチラッチレバー*をロックする。ラッチ (A) がアタッチメントのヒッチアームピン (B) に完全に掛かることが必要。
4. 駐車ブレーキ*を掛け、エンジンを止める。
5. アタッチメントの駆動ベルトを、パワーユニットの PTO の駆動プーリに取り付ける。それぞれのプーリにベルトが正しく掛かっていることを確認する。
6. PTO ベルトのテンションロッドを締める。
7. 油圧装置を使用する場合は、油圧ホースの端部をきれいにぬぐい、パワーユニットの油圧クイックカップラに接続する。複数組みのホースを接続する場合は、同じ色のホースどうしを接続する (赤カップラには赤ホースという風に)。



アタッチメントの取り外し

1. 平らな場所でパワーユニットを停止させて駐車ブレーキ*を掛ける。
2. デッキ高さ調整ハンドルを #18 位置にセットする。
3. 重量移動システム*を解除する。
4. アタッチメントを地表面まで降下させる。
5. パワーユニットのエンジンを止める。
6. PTO ベルトのテンションロッドをゆるめる。
7. パワーユニットの PTO の駆動プーリから、アタッチメントの駆動ベルトを外す。
8. 二次 SDLA レバー使用機器ではレバーを左右に動かして油圧を解放し、パワーユニットから油圧クイックカップラを外して、ホースの端部をアタッチメントの上部フレームの穴に収納する。
9. 前ヒッチのロックレバー*を解除する。
10. パワーユニットのエンジンを再始動し、ゆっくりとバックしてアタッチメントから離れる。アタッチメントが外れにくい時は、ステアリングハンドルを左右に軽く回してタイヤを揺るとよい。

運転操作

運転前に始業点検を行い、デッキの刈高の設定とパワーユニットの重量移動設定が適切であることを確認してください。

刈り込みデッキを芝面まで降下させ、パワーユニットの一次 SDLA レバーを右一杯に (戻り止めに掛かるまで) 押し、フロート位置にセットします。戻り止めに掛かれば、レバーはフロート位置に固定されます。

エンジン回転数を 2,000-3,000 rpm に調整し、PTO スイッチを入れます。スロットルを調整してエンジンの回転数を希望速度にします。

刈り込みラインを決めて前進で刈り込みを開始します。必要に応じて障害物の回避や異物の除去などを行いながら刈り込みを進めます。刈り込みラインの端に来たら、パワーユニットとデッキを旋回させて次の刈り込みラインに合わせて作業を続けます。

往復しながら刈り込むと、隣のラインとは反対方向に刈ることになるので、ストライプ刈りとなります。また、リアローラが進行方向に芝を寝かすことにより、さらに高いストライプ効果が得られます。

*パワーユニットの制御装置の使い方については、パワーユニットのオペレーターズマニュアルを参照してください。

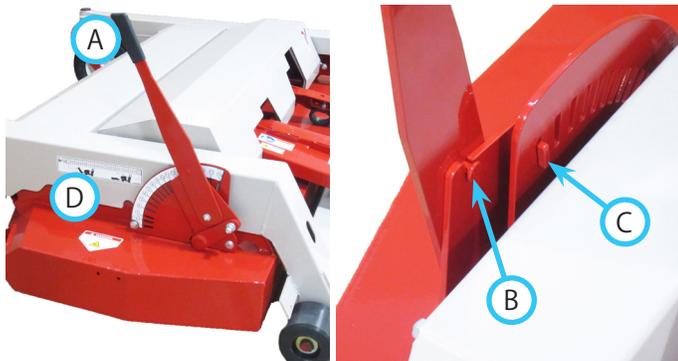
運転操作全般について

アタッチメントを搬送する時

無駄な損耗を減らすため、パワーユニットのフロントヒッチとアタッチメントを一番上まで上げた状態で運搬してください。起伏の大きい路面や未舗装道などでは、パワーユニットを確実にコントロールできるように、また、パワーユニットやアタッチメントへの衝撃を軽減するために、速度を十分に落として走行してください。アタッチメントを搬送する際は、必ずパワーユニットのPTOを解除してください。

刈高の調整

1. 刈高調整ハンドル (A) を立てて、刈高調整プレートのノッチ (B) にピンをはめ込む。

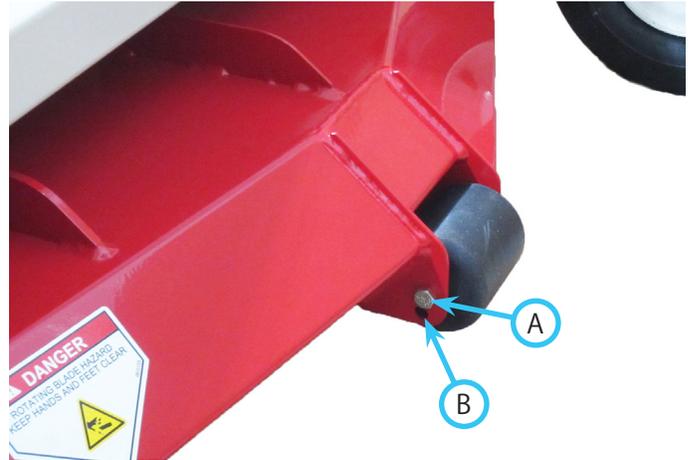


2. ハンドルを外側に引いて、刈高調整プレートのタブ (C) を、刈高セクタプレートのスロットから外す。
3. 刈高調整ハンドルで希望の刈高にしたなら、刈高調整プレートのタブを、刈高セクタプレートのスロットにはめる。キャリアフレームの側面にあるデカル (D) に記載されている、刈高とセクタの位置番号を参照するとよい。
4. 刈高調節ハンドルのピンを刈高調整プレートから外し、ハンドルをデッキまで下げる。

前ローラの位置

刈り込みデッキには 3 本の前ローラがあり、取り付け位置を上または下から選択します。取り付け位置は刈高によって決まります。軸刈りを防止するため、ローラは推奨位置に取り付けてください。また、ローラーは 3 本ともすべて同じ高さ位置に取り付けてください。

刈高が 44 mm 以下の場合、上穴 (A) にローラを取り付けてください。



刈高が 51 mm 以下の場合、下穴 (B) にローラを取り付けてください。

マルチングキット (オプションアクセサリ)

マルチングの手順は、天候や芝草の種類、土壌の状態などによって大きく変わります。一般的には、乾燥した状態の時に余り日を開けずに刈り込みを行うのがベストです。落ち葉のマルチングも、芝草が多少入る方が、うまくマルチングされてきれいに分散されます。

マルチングは通常の刈り込みよりも多くのパワーを必要とします。マルチングするときは走行速度を落とし、また刈り込みの量を少なくしてください。葉が濡れている時やぶ厚く茂った芝草をマルチングする場合は、デッキの内側の頻繁な掃除が必要がある場合があります。

マルチングにはマルチングブレードを使用してください。また、ブレードは常に鋭利な状態で使用してください。

整備

警告

機械の点検、修理、調整などを行う時は、必ず駐車ブレーキを掛け、パワーユニットのエンジンを停止してイグニッションキーを抜き取り、機械のすべての動作が完全に停止していることを確認すること。

注意事項

交換部品は必ず Ventrac 純正品を使用すること。

機体の清掃と一般的な保守整備作業

一日の作業が終わったら、刈り込みデッキの清掃と洗浄を行って、機体にこびりついた刈りかすや木葉、土などを除去しておく、外装をきれいに維持することができ、良い結果を得ることができます。デッキの裏面へのアクセスについては、「デッキの立て方」の項を参照してください。

刈り込みデッキを洗浄する時に、ベアリングやシールに高圧の水を直接吹き付けしないでください。洗浄が終了したら、デッキを一度作動させて、駆動系のシールやベアリングの内部から水を追い出しておくことが重要です。洗浄が完了したら、デッキを通常運転位置に戻してください。パワーユニットとデッキを、ほこりやゴミのないきれいな場所に移動し、PTO を 30 秒間作動させて、残っている水を吹き飛ばしてください。

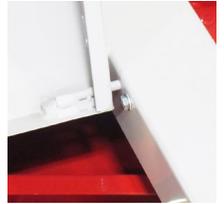
メインデッキのカバーシールドの取り外しと取り付け

1. メインデッキのカバーシールドを開ける。
2. シールドを右に押しすと、左側のピンをキャリア フレームから外れてくる。



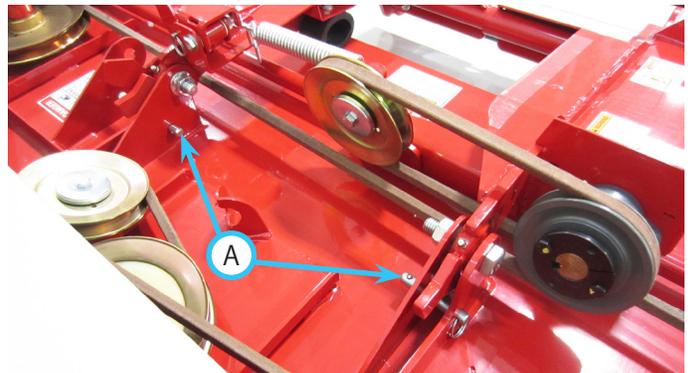
3. カバーの左側を持ち上げて左側にスライドさせ、右側のピンをキャリア フレームから取り外す。
4. シールドが傷付いたり破損したりしないよう安全な場所にシールドを置く。

5. カバーを取り付ける時は、右側のピンを、右キャリアフレームのアーム穴に差し込む。
6. 左側のピンを、スプリングに逆らって押し縮め、左側のキャリアフレームに入れられるようにする。
7. カバーの左側をフレームに入れて左キャリアフレームのアームにピンを入れる。注: キャリアフレームのボルトを、カバー端部にあるスロットにセットすること。



デッキの立て方(デッキを整備位置にするには) 手動で立てる場合

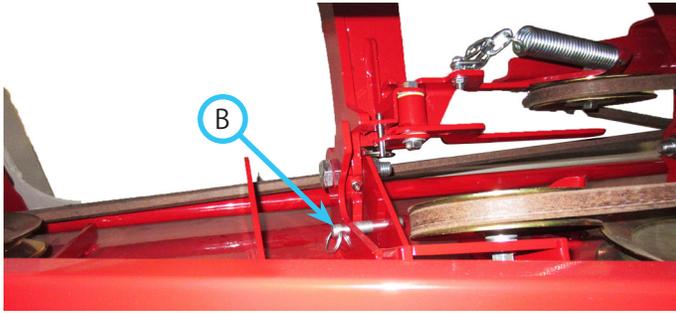
1. パワーユニットを平らで滑らかな場所に駐車する。
2. 駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させ、イグニッションキーを抜き取る。
3. デッキ高さ調整ハンドルを #1 位置にセットする。
4. メインデッキのカバーシールドを開ける。
5. ベルトテンショナハンドルについているボールピンを外し、ハンドルを 180 度回転させて、ベルトの張力をなくす。
6. 左右のヒッチアーム取付ブラケットから、ボールピン (A) 2本を外す。



7. メインデッキのカバーシールドを閉じる。
8. パワーユニットのエンジンを始動して、フロントヒッチを最も高い位置まで上げる。

整備

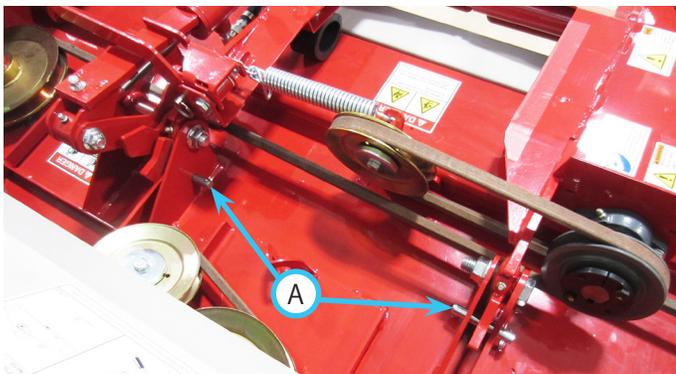
9. デッキをほぼ垂直まで持ち上げ、ボールピン (B) を取り付けてデッキを直立位置に固定する。



10. デッキを通常運転位置に戻すには、2本のピンを外してデッキを通常運転位置に降ろす。注：油圧ドリフトのせいでフロントヒッチが下がってしまった場合は、エンジンを始動し、刈り込みデッキを上げてから、ボールピンを取り外すとよい。
11. デッキを床面まで降下させる。
12. ヒッチアーム取り付けブラケットに、ボールピン (2本) を元通りに取り付ける。
13. ベルトがプーリーの溝に正しく収まっていることを確認して、ベルトテンショナハンドルを180度回転させてベルトにテンションをかけ、ボールピンで固定する。

自動で立てる場合 (オプションの油圧フリップアップを使用)

1. パワーユニットを平らで滑らかな場所に駐車する。
2. 駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させ、イグニッションキーを抜き取る。
3. デッキ高さ調整ハンドルを #1 位置にセットする。
4. メインデッキのカバーシールドを開ける。
5. ベルトテンショナハンドルについているボールピンを外し、ハンドルを 180 度回転させてベルトの張力をなくして、シリンダロックブラケットを解放する。
6. 左右のヒッチアーム取付ブラケットから、ボールピン (A) 2本を外す。
7. メインデッキのカバーシールドを閉じる。

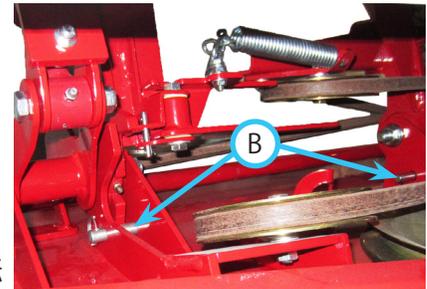


8. 運転席に戻ってパワーユニットのエンジンを始動し、パワーユニットのフロントヒッチを最も高い位置まで上げる。

9. 二次 SDLA レバーを左側に引き、デッキがほぼ垂直になって動かなくなるまで保持する。注：デッキを立てるときは、パワーユニットのエンジンをフルスロットル (最大 RPM) で動作させる方がよい。

10. パワーユニットのエンジンを止め、イグニッションからキーを抜き取る。

11. ボールピン (B) 2本を、上位置に差し込む。注：ピンを取り付けにくい場合は、デッキの上部を少し押し戻すようにすると良い。



12. デッキを通常運転位置に戻すには、ボールピン (2本) を外し、運転席に座ってエンジンを始動し、二次 SDLA レバーを右に押し、デッキを通常位置に降ろす。注：油圧ドリフトのせいでフロントヒッチが下がってしまった場合は、エンジンを始動し、刈り込みデッキを上げてから、ボールピンを取り外すとよい。

13. デッキを床面まで降下させる。

14. パワーユニットのエンジンを止め、イグニッションスイッチからキーを抜き取る。

15. ヒッチアーム取り付けブラケットに、ボールピン (2本) を元通りに取り付ける。

16. ベルトがプーリーの溝に正しく収まっていることを確認して、ベルトテンショナハンドルを180度回転させてベルトにテンションをかけ、ボールピンで固定する。

整備

刈り込みブレードの点検と交換

⚠ 注意

刈り込みブレードは鋭利である。ブレードを取り扱うときは、必ず厚手の手袋を着用すること。

1. 刈り込みデッキを立てて整備位置にする。
2. ブレード刃先が十分に鋭いかどうか点検する。刃先が丸くなっていたり損傷したりしている場合は、取り外して研磨するか交換する。
3. ブレードの端とデッキフレームとの間に角材 (5cm × 10cm 程度) を挟み込んで、ブレードが回転しないようにする。
4. ブレード固定ボルトを左に回してゆるめて、ブレードを外す。
5. ブレードを取り付けてブレードボルトを締める際には、ブレードが回転しないよう、ブレードの反対側に角材などを嵌めてブレードをブロックすること。
6. ブレードボルトを 136 Nm・m (11.1 kg・m = 100 ft・lb) にトルク締めする。

ブレードの研磨

刈り込みブレードは研磨後にバランス調整が必要になります。研磨は専門家に依頼してください。バランスを維持しながら、左右とも以前と同じ角度で削り、刃の長さを同じに維持することが必要です。

ベルトの点検

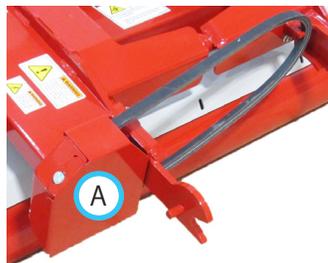
日常点検の一部としてアタッチメントの駆動ベルトを点検することにより、ベルトの劣化を早期に発見することができ、突然のベルト切れといった急なトラブルを防止することができます。

代表的な劣化状態を以下の図に示します。このような状態になったら、ベルトの交換が必要です。



アタッチメントベルトの交換

1. パワーユニットからデッキを切り離す。
2. 駆動プーリのシールド (A) を外す。
3. 古い駆動ベルトを取り外して、新しいベルトをプーリに取り付ける。
4. 駆動プーリのシールド (A) を元通りに取り付ける。



デッキベルトの交換

1. パワーユニットからデッキを切り離す。
2. メインデッキのカバーシールドを開ける。
3. ベルトテンショナハンドルについているボールピンを外し、ハンドルを半回転させて、ベルトの張力をなくす。
4. ベルトテンショナプーリからベルトを取り外し、左ヒッチアーム取り付けブラケットをベルトで取り囲むように、左ヒッチアームの端に置く。



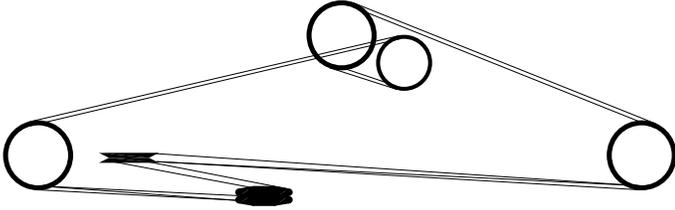
5. 左側ヒッチアーム取り付けボルトを外し、ヒッチアームを持ち上げて取り付けブラケットから外す。



6. ヒッチアームと取り付けブラケットの間のからデッキベルトを引き出す。
7. スピンドルプーリからベルトを外し、左右のヒッチアームを少し持ち上げてベルト後部のループをヒッチアームバンパーから外して、ヒッチアームからベルトを外す。

整備

- 新しいベルトをヒッチアームに掛ける。ベルトループの前部はヒッチアームの上、スピンドルプーリーに取り付ける。ベルトループの後部はヒッチアームの下に入る。

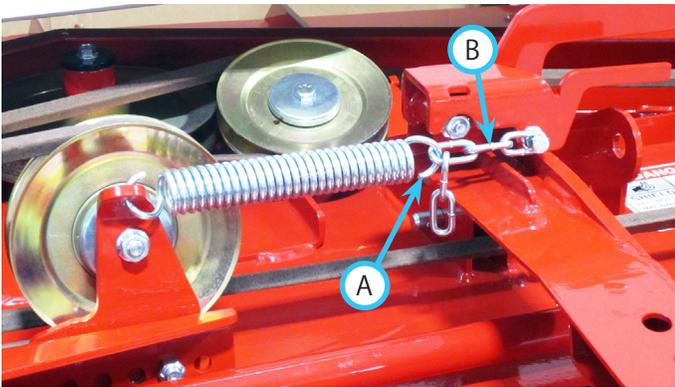


- 前の写真に示すように、左側ヒッチアームの前部を持ち上げて取り付けブラケットから離し、左側ヒッチアーム取り付けブラケットにベルトを巻き付ける。
- 左側ヒッチアームにボルトとナットを取り付け、205 Nm (151 ft.lb) にトルク締めする。
- 駆動シャフトプーリーとベルトテンショナープーリーにベルトを回しかける。
- ベルトが正しく取り付けられ、各プーリーの溝に収まっていることを確認する。
- ベルトテンショナーハンドルを180度回転させてベルトにテンションをかけ、ボールピンで固定する。

デッキベルトのテンション調整

普通に刈り込んでいるのにデッキベルトがスリップする場合には、ベルトの張りの調整が必要です。

- メインデッキのカバーシールドを開ける。
- ベルトテンショナーハンドルについているボールピンを外し、ハンドルを180度回転させて、ベルトの張力をなくす。
- 延長スプリングフック (A) を、ベルトテンショナーハンドルに近い方のチェーンリンク (B) に移動させる。



- ベルトテンショナーハンドルを下げてベルトにテンションをかけ、ボールピンで固定する。
- メインデッキのカバーシールドを閉じる。

デッキの水平調整

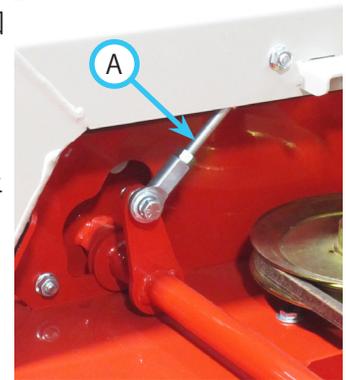
⚠ 注意

刈り込みブレードは鋭利である。ブレードを取り扱うときは、必ず厚手の手袋を着用すること。

- よごれのない、水平な硬い床面にモアデッキを置く。
- デッキ高さ調整ハンドルを #18 位置にセットする。
- 左右の前タイヤの空気圧が推奨通りであることを確認する。
- 調整作業中にデッキが動かないように、タイヤと後ローラーに輪止めを掛ける。
- 刈り込みブレードが変形していないことを確認する。
- デッキの左右どちらか一方から開始する。まずブレードを回して刃先をデッキの後方に向ける。床面から刃先までの高さを測定する。

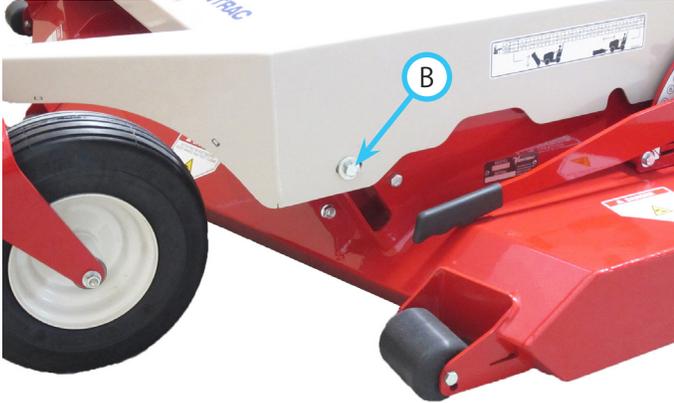


- デッキの左右残りも同様にする。まずブレードを回して刃先をデッキの後方に向ける。この測定値が最初の測定値と異なる場合は、最初の測定値と同じになるまで、デッキの上面にある高さ調整リンク (A) を調整する。



整備

8. 以上のようにしてデッキの左右の水平ができれば、今度はブレードの先端をデッキの前側に回転させて測定を行う。前側の刃先の高さが、後側の高さよりも 3 mm 低ければ適正。デッキの前部の方が高い、または 3 mm 以上低い場合は、デッキの前後の水平調整を行う。
9. デッキの前後調整を行うには、キャリアフレームのクロスボルト (B) をゆるめる。



スロット内でボルトを前方に移動するとデッキ前方が下がり、後方に移動するとデッキ前方が上がる。**注:** ボルトのわずかな動きで、デッキの高さが大きく変わるので注意すること。

10. 調整ができれば、キャリアフレームのクロスボルトを締め付け、後部の高さ調整リンクのナットをロックする。

タイヤ空気圧

タイヤの空気圧は 55-69 kPa (8-10 psi) に維持してください。左右のタイヤ空気圧が異なると、刈り込みにムラが発生する場合があります。

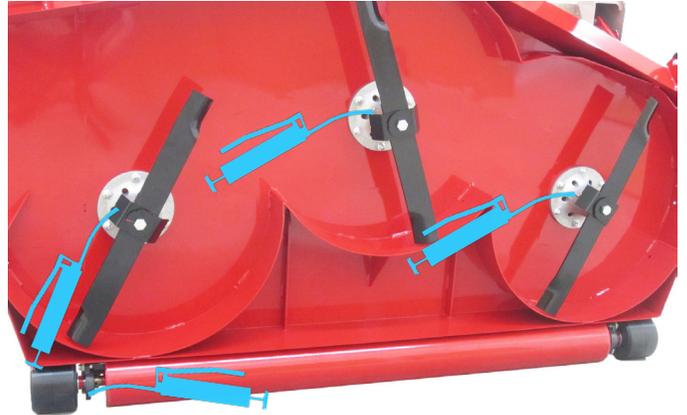
潤滑ポイント

以下の箇所には、リチウム系複合 NLGI #2 グリスによる潤滑を行ってください。

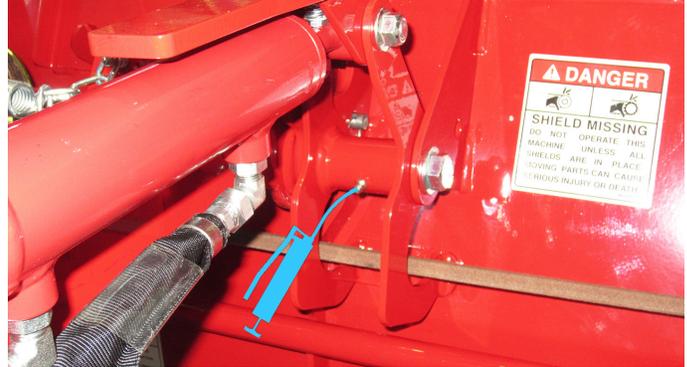
グリスフィッティングにグリスガンを接続する前に、グリスフィッティングの汚れを拭き取ってください。

整備間隔とグリスの量については、定期整備項目一覧表を参照してください。

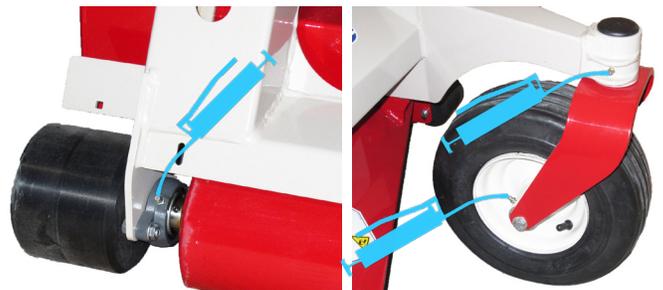
1. 刈り込みデッキを立てて整備位置にする。
2. スピンドル (3本) と右後部のローラ ベアリングにグリスを塗る。



3. デッキに油圧式直立キットが装備されている場合は、ロッカーブラケットにもグリスを塗る。



4. デッキを刈り込み位置に戻して、床面まで下げる。
5. 左後部のローラベアリング、左右のキャスタホイールのピボット、左右の車輪の軸にグリスを塗る。

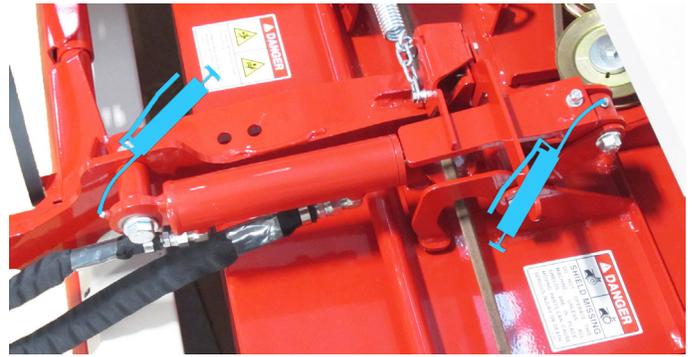


整備

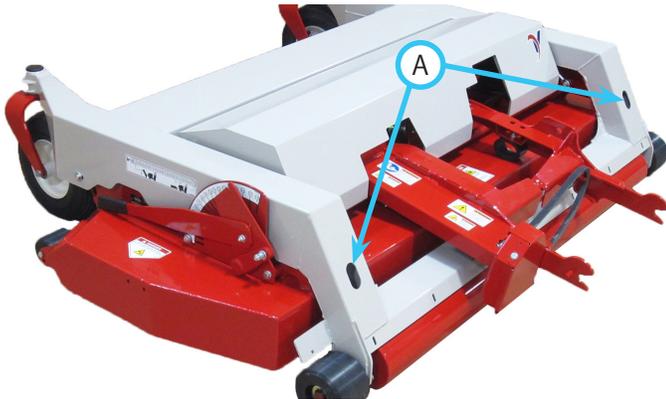
6. ドライブシャフトのベアリングとヒッチアームのピボットにグリスを塗る。はみ出したグリスはすべてふき取る。



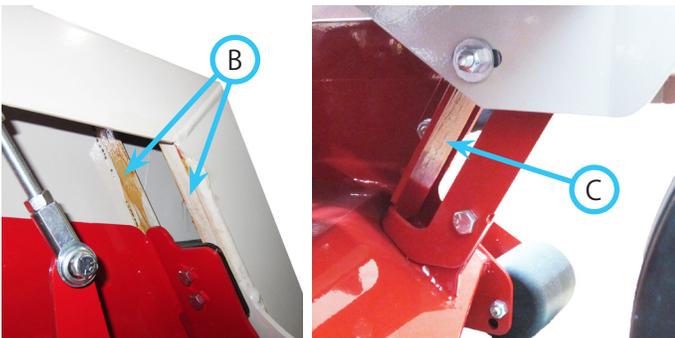
12. デッキに油圧式直立キットが装備されている場合は、シリンダの先端にもグリスを塗る。はみ出したグリスはすべてふき取る。



7. デッキ高さ調整ハンドルを #18 位置にセットする。
8. キャリアフレームについているアクセス穴 (A) から、後キャリアフレームとデッキのスライドプレートの背面を清掃し、グリスを塗る。



9. デッキ高さ調整ハンドルを #1 の位置にし、メインデッキカバーシールドを開く。
10. 後キャリアフレーム/モアデッキスライドプレートの前面 (B) を清掃してグリスを塗る。



11. 前キャリアフレーム/モアデッキスライドプレートの後面 (C) を清掃してグリスを塗る。

格納保管

アタッチメントの格納保管準備

1. 刈り込みデッキとフレームを清掃する。
2. ゆるんだり外れたりしている部品や、機器の破損や摩耗がないか点検する。摩耗・破損した機器は交換する。
3. ベルト、スピンドル、ブレードの点検を行う。摩耗・破損した機器は交換する。
4. 安全デカルを点検する。色あせ、判読不能、または欠落しているデカルは交換する。
5. グリスポイント全部にグリスを注入する。はみ出たグリスは拭き取る。
6. 油圧式フリップアップを搭載している場合は、油圧ホースに損傷や摩耗がないか点検する。油圧ホースとフィッティングを点検し、接続部がしっかり締まっっていてオイル漏れがないことを確認する。
7. 塗装部分に剥がれ、ひっかき傷、錆などがないか点検する。必要に応じてタッチアップする。

保管状態から通常使用状態への復帰

1. アタッチメントにたまっているごみやほこりを除去する。
2. このマニュアルの「日常点検」の手順に従って、アタッチメントの点検を行う。
3. 試運転を行って、すべてのコンポーネントとシステムが正常に動作することを確認する。

整備

整備スケジュール

| | 箇所数 | ポンプの数 | 必要に応じて | 毎日 | 50 時間 | 100 時間 | 150 時間 | 200 時間 | 250 時間 | 300 時間 | 350 時間 | 400 時間 | 450 時間 | 500 時間 | 550 時間 | 600 時間 | 650 時間 | 700 時間 | 750 時間 | 800 時間 | 850 時間 | 900 時間 | 950 時間 | 1,000 時間 | 1年ごと | |
|---|-----|-------|--------|----|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|----------|------|--|
| グリスと注油：潤滑の章を参照 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| キャストホイールピボット | 2 | 1 | | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | |
| ホイールアックスのベアリング | 2 | ^ | ** | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | |
| 後ローラのベアリング | 2 | 1 | | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | |
| ジャッキシャフトのベアリング | 2 | 1 | | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | |
| スピンドル | 3 | 3 | | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | |
| ヒッチアームのピボット | 2 | ^ | | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | |
| デッキスライド | 4 | % | ** | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | |
| 油圧フリップアップシリンダの端部 | 2 | ^ | | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | |
| 油圧フリップアップのロッカーブラケット | 1 | ^ | | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | |
| 点検 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 機器・部品のゆるみ、欠落、損も度の確認 | | | | ✓ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| タイヤ空気圧を点検する | | | | ✓ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ベルトとプーリの点検 | | | | ✓ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ブレードとブレード取り付けボルトを点検する (136 Nm (100 ft.lb にトルク締めする) | | | | ✓ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ヒッチピボットのボルトを点検する (205 Nm (151 ft-lbs) にトルク締めする) | | | | | ✓ | | ✓ | | ✓ | | ✓ | | ✓ | | ✓ | | ✓ | | ✓ | | ✓ | | ✓ | | ✓ | |
| 安全デカルの点検 | | | | ✓ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ^ 新しいグリスがはみ出てくるまで注入を続ける。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ** 苛酷な条件下で使用している場合には、より頻繁な点検・整備が必要となります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| % 清掃し、グリスを薄く塗る。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

整備

定期整備チェックリスト

| | 箇所数 | ポンプの数 | 必要に応じて | 毎日 | 50 時間 | 100 時間 | 150 時間 | 200 時間 | 250 時間 | 300 時間 | 350 時間 | 400 時間 | 450 時間 | 500 時間 | 550 時間 | 600 時間 | 650 時間 | 700 時間 | 750 時間 | 800 時間 | 850 時間 | 900 時間 | 950 時間 | 1,000 時間 | 1年ごと | |
|--|-----|-------|--------|----|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|----------|------|--|
| グリスと注油：潤滑の章を参照 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| キャスタホイールピボット | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ホイールアックスのベアリング | 2 | ^ | ** | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 後ローラのベアリング | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ジャッキシャフトのベアリング | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| スピンドル | 3 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ヒッチアームのピボット | 2 | ^ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| デッキスライド | 4 | % | ** | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 油圧フリップアップシリンダの端部 | 2 | ^ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 油圧フリップアップのロッカーブラケット | 1 | ^ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 点検 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 機器・部品のゆるみ、欠落、損も度の確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| タイヤ空気圧を点検する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ベルトとプーリの点検 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ブレードとブレード取り付けボルトを点検する (136 Nm (100 ft.lb にトルク締めする)) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ヒッチピボットのボルトを点検する (205 Nm (151 ft-lbs) にトルク締めする) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 安全デカルの点検 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ^ 新しいグリスがはみ出てくるまで注入を続ける。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ** 苛酷な条件下で使用している場合には、より頻繁な点検・整備が必要となります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| % 清掃し、グリスを薄く塗る。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

仕様

寸法

| | |
|---------------|---------------|
| 全高..... | 46.4 cm |
| 全長..... | 168 cm |
| 全幅..... | 220 cm |
| 重量..... | 249 kg |
| 刈幅..... | 183 cm (72") |
| 刈高範囲..... | 25.4 - 127 mm |
| カッティング位置..... | .18 |

特長

- デッキのフリップアップ機能
- 芝削り防止ローラ3本
- 刈幅と同じ長さの後ローラにより均一な刈り込みとストライピングを実現
- レバー1本で直線的に調整が可能
- フルフローティングデッキ
- スピンドルはフィールドで整備可能

最新のオペレーターズマニュアルはこちら
へ:ventrac.com/manuals
パーツマニュアルもダウンロードできます。

すべてのマニュアル
を見る

